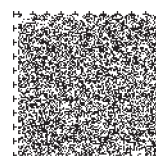
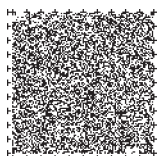


資料編





資料編 アンケート調査結果の概要

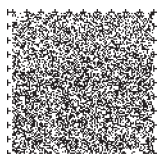
1 調査の目的と概要

計画の策定にあたり、本市に居住する身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を所持している人及び障害児通所支援支給決定対象児童から無作為抽出した障害のある人を対象とし、障害のある人における障害の状況、住まいや暮らし、保健・医療、就労などについての意識や福祉ニーズ等を把握し、今後の障害者福祉施策に活用することを目的として実施しました。

調査対象	・本市に居住する身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者 ・障害児通所支援支給決定対象児童
調査期間	平成 28 年2月
調査方法	郵送配布～郵送回収
配布数	2,000 人
有効回収数 (有効回収率%)	1,338 人(66.9%)

◆図表等の見方について◆

- (1)集計は小数点以下第2位を四捨五入しています。また、未回答の場合もあるため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- (2)2つ以上の回答を要する(複数回答)質問の場合、その回答比率の合計は100%にならない場合があります。
- (3)図表や文中に示すNは、比率算出上の基数(標本数)です。全標本数ベースを示す「全体」を「N」、限定された回答者数を「n」で標記しています。
- (4)図表中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値(例:0.0%、0.1%など)は、図と干渉して見えにくい場合などに省略している場合があります。
- (5)図表によっては「その他」や「無回答」を省略することや、全体値の上位回答項目を抜粋して表記している場合があります。



2 回答者の属性

(1) 障害別回答者

回答者は、身体障害者手帳所持者が 854 人（有効回収数に占める構成比 63.8%）、療育手帳所持者が 247 人（同 18.5%）、精神障害者保健福祉手帳所持者が 184 人（同 13.8%）の内訳となっています。

◆障害別回収状況◆（上段は構成比%、下段は回答件数）

サンプル数	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳	持っていない	無回答
100.0	63.8	18.5	13.8	5.9	1.6
1,338	854	247	184	79	22

(2) 回答者の年齢

回答者の年齢は、身体障害のある人では「50 歳以上（合計）」の割合が 6 割以上を占め、他の障害を上回っています。知的障害のある人は「18 歳未満」で全体の 4 割以上を占め、「29 歳以下（合計）」で全体の 7 割近く（69.6%）を占めています。精神障害のある人は「40～49 歳」の割合が他の障害のある人に比べ高くなっています。

◆年齢別内訳◆（上段は構成比%、下段は回答件数）

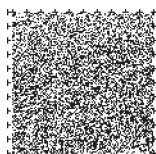
	サンプル数	18 歳未満	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70 歳以上
全体	100.0	19.1	8.4	7.6	13.5	18.4	22.3	9.1
	1,338	255	113	102	181	246	298	122

【障害別】

身体障害	100.0	6.4	5.0	7.1	14.9	24.0	30.6	11.0
	854	55	43	61	127	205	261	94
知的障害	100.0	44.5	25.1	9.3	8.5	4.9	3.2	3.2
	247	110	62	23	21	12	8	8
精神障害	100.0	19.6	12.0	10.9	19.0	16.3	12.5	7.6
	184	36	22	20	35	30	23	14
手帳非所持者	100.0	81.0	1.3	0.0	1.3	3.8	2.5	2.5
	79	64	1	0	1	3	2	2

※図表の表記について

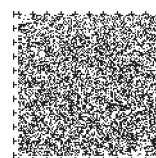
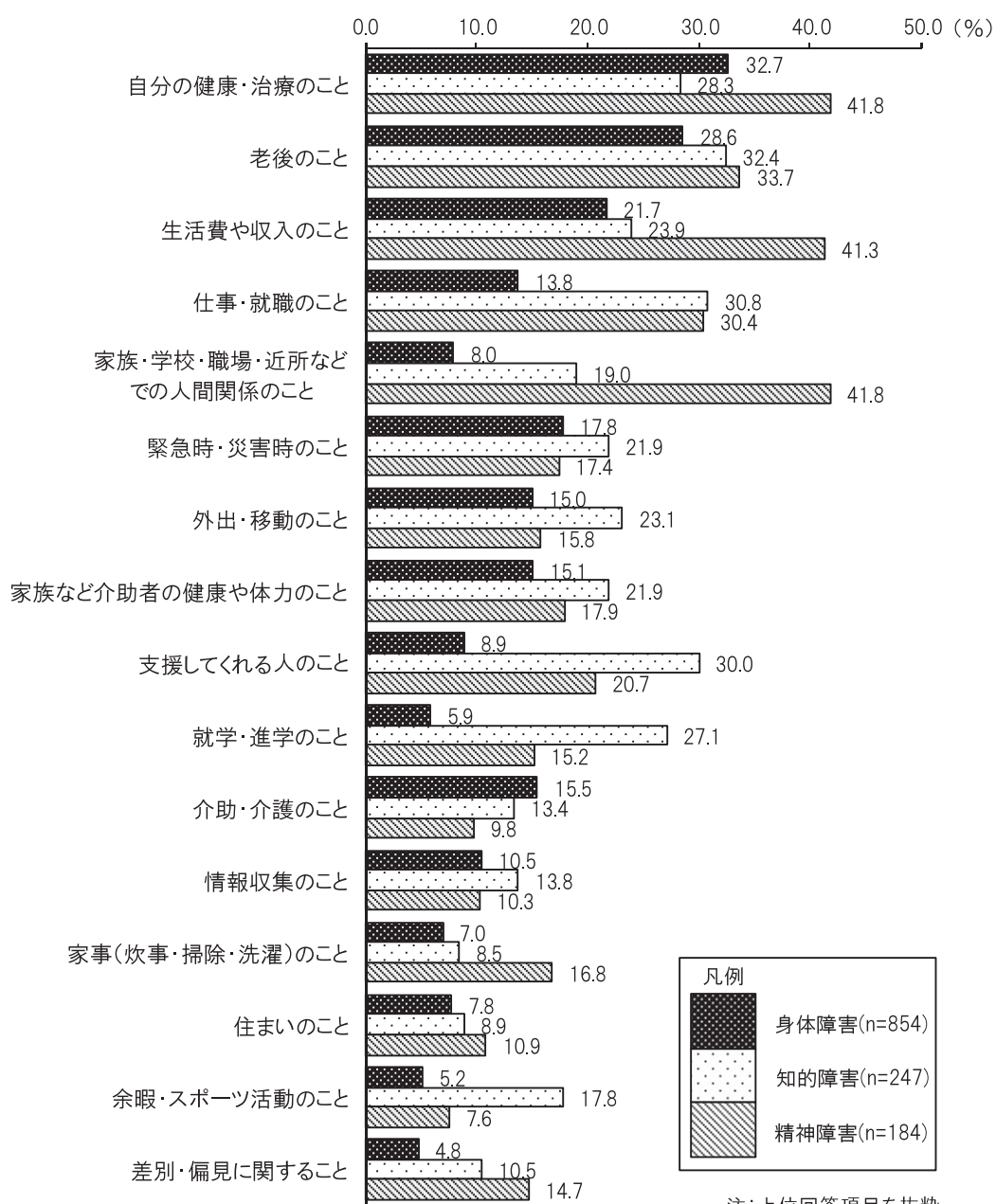
- ・「身体障害」→「身体障害者手帳」を持っていると回答した人
 - ・「知的障害」→「療育手帳」を持っていると回答した人
 - ・「精神障害」→「精神障害者保健福祉手帳」を持っていると回答した人
 - ・「手帳非所持者」→手帳を「持っていない」と回答した人
- （以下、本章においては同様）



3 相談について

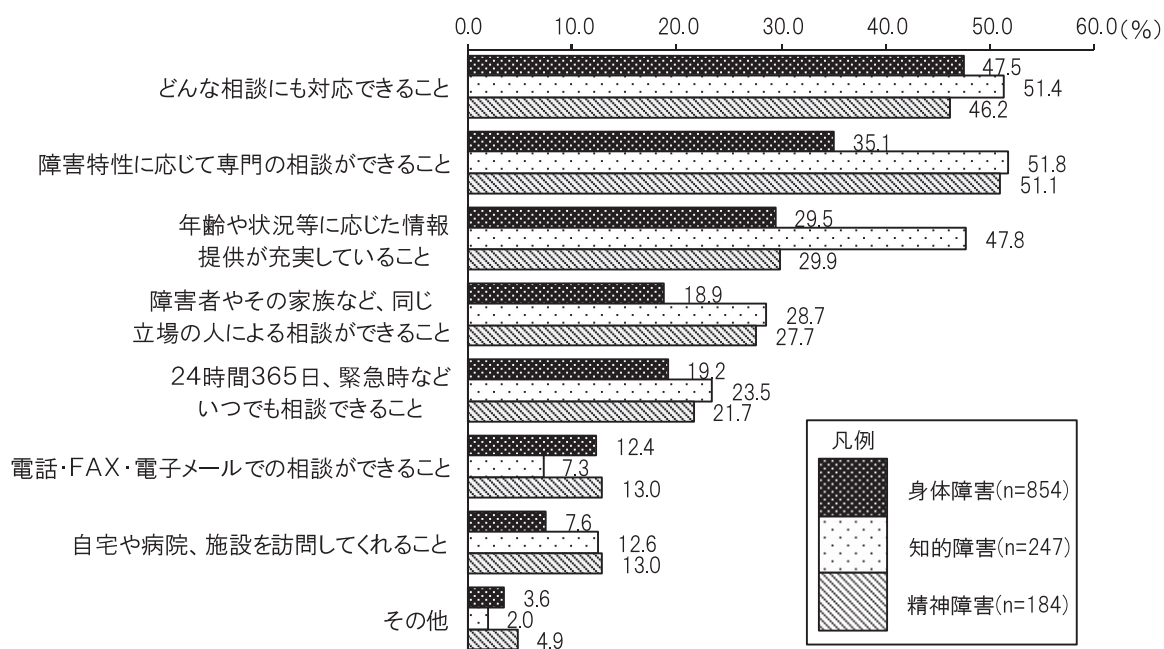
(1) 相談したいこと

身体障害のある人では「自分の健康・治療のこと」「老後のこと」などの割合が高くなっています。知的障害のある人では他の障害のある人に比べ「仕事・就職のこと」「支援してくれる人のこと」「就学・進学のこと」などが高く、精神障害のある人では「自分の健康・治療のこと」「生活費や収入のこと」「家族・学校・職場・近所などでの人間関係のこと」などが高く、相談したい内容は障害によって大きな差がみられます。



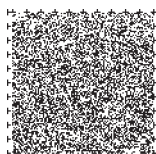
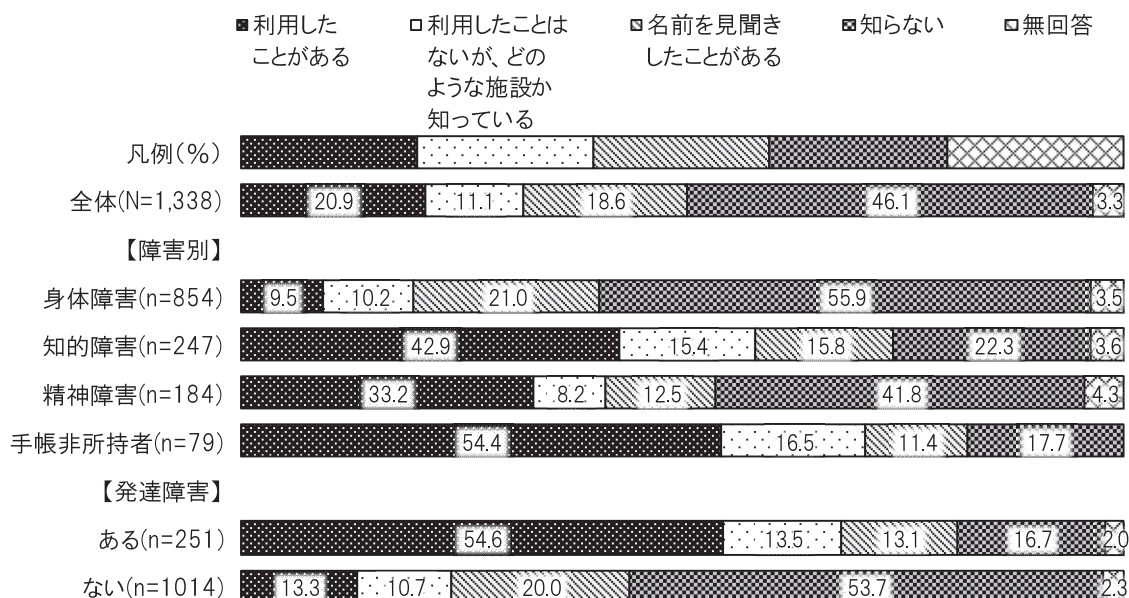
(2) 相談先に望むこと

相談先に望むことについては、知的障害のある人及び精神障害のある人では「障害特性に応じて専門の相談ができること」の割合が高く、また、知的障害のある人では「年齢や状況等に応じた情報提供が充実していること」などが他の障害のある人を大きく上回っています。



(3) 子育て・障害総合支援センター（はあとふる）の利用状況

子育て・障害総合支援センター（はあとふる）の利用状況については、「利用したことがある」（利用経験）が 20.9%となっています。利用したことがある人の割合は、手帳非所持者や知的障害のある人、また、発達障害のある人で高くなっています。

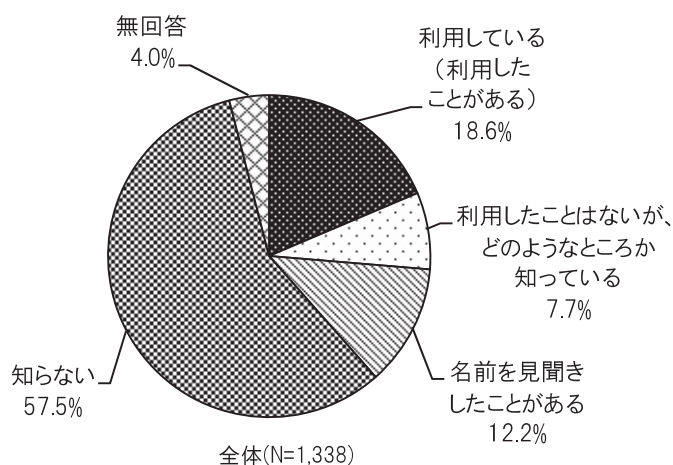


（４）相談支援事業所の利用について

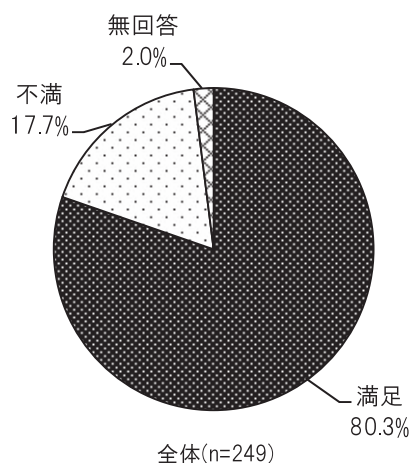
①相談支援事業所の利用状況と満足度

相談支援事業所の利用状況については、「利用している（利用したことがある）」（利用経験）が 18.6%となっています。また、利用者のほとんど（80.3%）が「満足」と回答しています。

◆相談支援事業所の利用状況◆



◆相談支援事業所の利用満足度◆



②相談支援事業所の利用満足度と不満内容

相談支援事業所の利用に「不満」と回答した人の理由をみると、「自分の言いたいことをうまく伝えることができなかった」「これから何をどのようにすれば良いのか、よくわからなかった」「相談したい時に相談できなかった」などが上位に回答されています。

